



社会医療法人 三宅会

南港クリニック

がん温熱療法 ハイパーミア導入

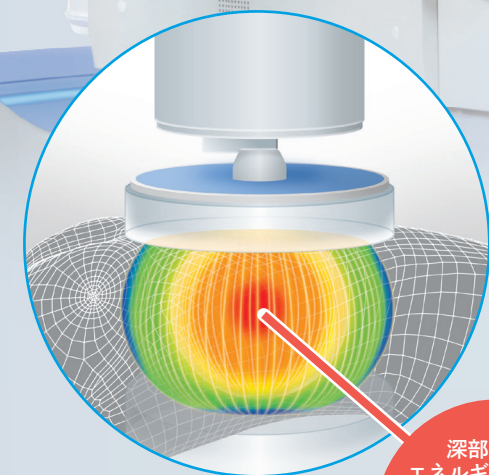
1月15日(月)より診療開始

負担の少ない治療

様々ながんに対応

ハイパーミアの主な特徴

- 1 身体への深達性に優れ、
深部臓器を無理なく加熱
- 2 表部から浅部、深部まで、
患部の深さに合わせて治療が可能
- 3 脳と眼球以外の全ての部位が治療可能



8MHzの高周波を与えるキャパシティブ方式により、身体内部に高周波電流が流れ、そのジュール熱により患部の温度を上昇させる仕組み。

深部にまで
エネルギーを届ける

8MHz
高周波

医療保険適用

診療報酬点数 電磁波温熱療法(一連につき)

- ・ 深在性悪性腫瘍に対するもの 9,000 点
- ・ 浅在性悪性腫瘍に対するもの 6,000 点

社会医療法人 三宅会 南港クリニック

〒559-0011 大阪市住之江区北加賀屋 2-11-8 北加賀屋千島ビル 101 号



ハイパー
サーミア
について



WEB からの
お問い合わせ

お問
合せ

地域医療連携 (病診連携よろず相談室)

TEL.06-4702-8009

平日 9:00 ~ 18:00、土曜日 9:00 ~ 12:00



ハイパーサーミア治療は、 他のがん治療との併用で 効果を高めます。

がん治療には化学療法、放射線療法、外科療法、免疫療法などがありますが、ハイパーサーミア療法はこれらの療法と併用することによって、それぞれの効果を増強することが可能です。

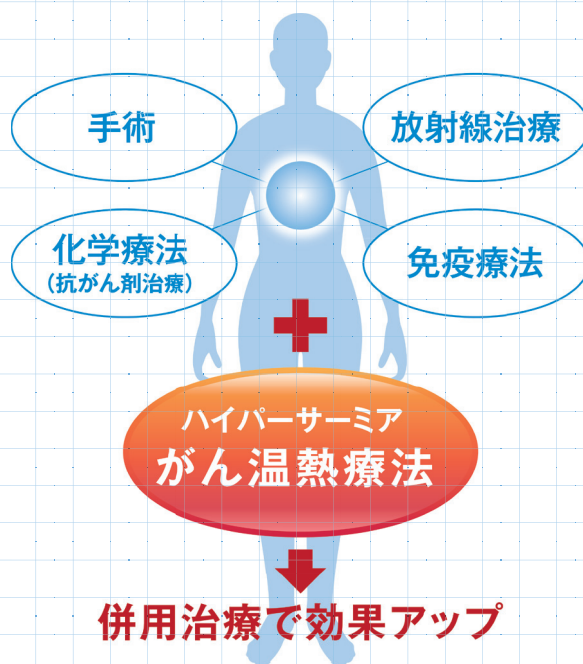
ハイパーサーミアの効果

温熱は放射線の効果を増強する

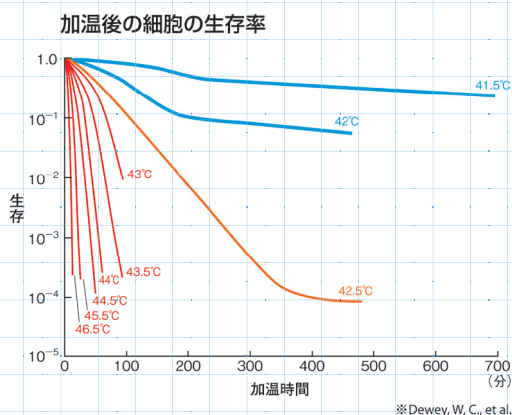
放射線治療は毛細血管周辺の酸素分圧の高い部分に有能ですが、血管から遠い低酸素部分では効果が低下します。ハイパーサーミアでは、血管から遠いところほど温度が上昇しやすく、違いの効果を補い合うことが考えられます。

温熱は多くの化学療法の効果を増強する

温熱によりがん組織の細胞内に多くの薬剤が取り込まれ、抗腫瘍効果が増強されることが確認されています。

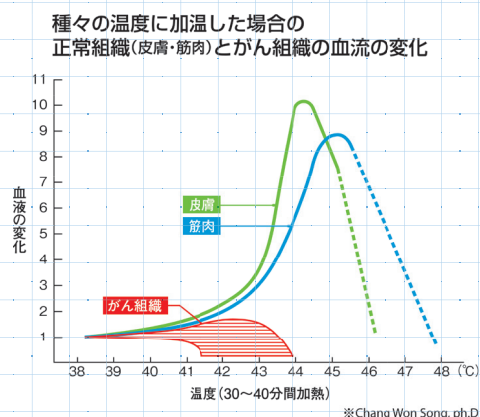


ハイパーサーミアの原理



がん組織は正常組織に比べて熱感受性が高い

がん組織のある局所を30～60分、42～43℃以上に加温。がん組織は正常組織に比べpHが低く、低pH下の細胞は熱感受性が高いので、温まりやすく、温度に耐えられず死滅していくのです。



がん組織は加温時に温度上昇しやすい

正常組織(皮膚・筋肉)は血管に収縮・拡張する機能が備わっているため、加温に対して血管を拡張させて血流を増やして熱を逃すことができます。しかし、がん組織は血管を収縮・拡張する機能が備わっていないため、加温に対して血流がほとんど増加しないが逆に低下。熱を逃すことができないため、温度が容易に上昇するのです。